



# こもれび

Nagasaki Prefecture Shimabara Hospital

2016 夏号



地域に信頼され、親しまれる病院を目指して、みなさまと当院をつなぎ、森に差し込む“こもれび”のような、ひとすじの光をお届けしたいと思います。

病院の屋上より熊本を望む

## Contents

- ・平成28年熊本地震 DMAT 活動を経験して  
DMAT 隊員 金子 龍太郎 .....2・3
- ・島原病院小児科‘再開’から2年経ちました  
小児科医 金城 勤也 .....4
- ・連携医療機関のご紹介  
高城病院 / 坂上整形外科 .....5
- ・部門 Topics  
医療相談室 がんと共に働くということ .....6
- ・新任医師紹介 .....6
- ・部門 Topics  
栄養班 栄養班の災害に向けた取り組み .....7
- ・市民公開講座を開催します。 .....8

## 病院理念

患者さん本人の立場に立った医療

## 病院指針

1. 早期診断、早期治療、早期リハビリテーションを医療の基本指針とします。
2. 診療にあたっては、インフォームド・コンセントを基本にして、患者中心の医療を展開します。
3. 早期退院と医療の継続を目的に病診連携、保健福祉の連携など、地域につながるチーム医療を展開します。
4. 地域医療を支援する施設として、常に医療水準の向上に努めます。
5. 経営基盤の確立に努め、協働、相互扶助、相互啓発を職場の規範として活力ある病院づくりを進めます。

# 熊本地震災害 DMAT報告

## 平成28年熊本地震 DMAT 活動を経験して

この度、熊本地方で起きました地震で被災された方々に心よりお見舞い申し上げます。また、地震によりお亡くなりになられた方々のご冥福をお祈りするとともにご家族の方々にお悔やみ申し上げます。加えて余震が続く中、避難生活を続けられている皆さまのご健康と、ご復興を職員一同祈願申し上げます。

活動期間：平成28年4月15日～4月17日  
隊員編成：医師1名 看護師3名 業務調整員1名



本震前 東熊本病院玄関前 避難先病院へ連絡選定中

氏名	所属
東 尚 (アズマ タカシ)	医局 外科診療部長
宮崎 美保子 (ミヤザキ ミホコ)	ICU 副看護師長
松田 雅子 (マツダ マサコ)	5 東副看護師長
金子 龍太郎 (カネコ リュウタロウ)	外来・救急外来看護師
井上 陽太 (イノウエ ヨウタ)	放射線科主任技師 (業務調整員)

## 活動内容

平成28年4月14日午後9時25分頃に熊本を震源とするM7の地震が発生し、島原半島では震度4を観測しました。災害拠点病院である島原病院では午後9時55分にDMAT※1がかけつけ、当直医と共に災害対策本部を立ち上げ、院内の安全(患者・スタッフ・建物)を迅速に評価し、医療継続が可能と判断した後に、島原消防本部や保健所等の関係機関に被害状況の問い合わせを行い島原半島の被害状況を確認しました。幸いな事に島原半島では大きな被害は無いとの事でありましたが続く余震に警戒しながら、引き続き情報収集を行いました。

4月15日午前1時にDMAT出動要請があり、深夜午前2時05分に島原病院を出発しました。高速道路を使用し、病院搬送車にて参集場所である、熊本赤十字病院へ午前6時52分に到着しました。DMAT活動拠点本部には、すでに先陣隊が到着していて、島原チームは65隊目のチームでした。

最初のミッションは、熊本赤十字病院DMAT活動拠点本部に待機しながら、指示された熊本天草の病院4箇所に連絡し被害状況を確認して、EMIS※2に入力を行いました。次のミッションは、益城町の役場救護所での医療救護当直業務を指示され、刻一刻と明らかになる情報を収集しました。

続く余震の中で短い仮眠をとった後、熊本赤十字病院DMAT活動拠点本部でミーティングを行っていた途中で、緊急のミッションが降りてきました。内容は、東熊本病院に赤(重症患者)が30名程、病院も倒壊状態との情報があり直接現場に行って緊急度を見極めて患者搬送を実施するとの内容でした。このミッションを長崎大学病院と島原病院DMATが引き受け、東熊本病院へ急行しました。震源地に近くとともに、停電している所も多く家屋の外壁が崩れていたり、道路が隆起していたりして地震の大きさを物語っていました。



本震前 東熊本病院玄関前

4月15日午後11時に東熊本病院へ到着し倒壊寸前で医療継続が困難な状況であったのを確認されており、北九州総合病院、鹿児島市立病院、長崎大学病院、田川市立病院、北九州市立医療センター、健和会大手町病院、長崎県島原病院のDMAT 7チームが参集しました。レスキュー介入を待ち4月16日午前0時30分に病院内へ侵入開始し入院患者のトリアージ(重傷者を色付けし緊急度を判定する)を実施。医療搬送を実施する為に転院先の病院を選定し受入れ連絡を東熊本病院玄関先で行いました。



本震前  
東熊本病院駐車場 灯光器にて視界確保



本震前  
東熊本病院駐車場 打ち合わせ中



本震直後  
緊急車両にて避難開始①

### 4月16日午前1時25分本震となるM7の地震が、DMAT 活動中に発生しその場にいた

DMAT、消防職員、レスキュー隊員全員が吹き飛ばされるように地面に倒れ込みました。直後より状況が一変し、騒然となり病院周辺は粉塵とガス臭が立ち込め、鳴り響く緊急地震速報のサイレンと不安の声がさらに、恐怖を駆り立てました。しかしながら、病院内にはまだ患者が取り残されており、レスキュー隊員、消防職員が果敢に患者と職員を救出し、歩道に設置した患者収容場所へ救出しました。それから救急車とDMAT車両、警察車両に

患者を乗せ緊急避難を実施しました。避難先は熊本市市民病院としていましたが、本震の影響で倒壊の恐れがあると判り、東病院へ搬送となりました。午前3時38分全員を東病院へ搬送終了し緊急的ミッションを終えました。

その後、島原病院DMATは待機の指示を受け興奮・恐怖・安堵感・疲労感を感じながら夜が明けるのを待ちました。しかし本震遭遇や不眠不休の状態での精神的・肉体的疲労もありこれ以上の活動は危険であり、他に迷惑をかける恐れもあると判断し撤退を考慮し、4月17日午後1時に島原病院へ帰還しました。隊員全員が無事に帰る事ができました。



本震直後  
緊急車両にて避難開始②



本震直後  
病院内より緊急避難

**今回の災害派遣**では、災害医療について考えさせられる事が多くありました。九州で大地震が起きる事は誰が予想していたでしょうか。地震(災害)は突然やってきました。日頃から災害に備えた行動や対策が必要だとも感じました。島原では雲仙普賢岳噴火が起き平成3年に大火砕流を経験しましたが改めて災害医療の大切さを痛感しました。今回の熊本地震を受け、災害医療のあり方、災害拠点病院としての役割を遂行する為にはどのような事したら良いのかを考え、実行していく事、啓蒙していく事が今後の課題であると感じています。

最後に、東病院に多数患者を受け入れてもらいましたが、玄関先に「歓迎 東熊本病院」と手書きで書かれていた事を記憶しています。それを見たときに胸が熱くなる思いで感激しました。東病院も被災して大変な状況であるにも関わらず、快く受け入れて頂いた事に敬意を表すると共に当院でもこうありたいと強く思いました。東熊本病院をはじめ被災されたすべての医療機関の皆様は災害医療に尽力され、互いに協力され災害時こそ、手を取り合ってこそ乗り切れると感じました。



左から松田看護師 東医師(隊長) 宮崎看護師 井上調整員 金子看護師

※1 DMAT: Disaster Medical Assistance Team の略  
災害派遣医療チームの事であり、医師、看護師、業務調整員(医療従事者)で構成される、大規模災害や多数傷病者が発生した事故等の現場に、おおむね48時間以内に活動できる機動性を持った、専門的な訓練を受けた医療チームの事。

※2 EMIS: Emergency Medical Information System 災害時に医療機関の稼働状況など災害医療に関わる情報を共有し、被災地域での医療救護活動を迅速かつ適切に行うためのシステム。

参考: DMAT 事務局 HP <http://www.dmat.jp/>



# 小児科 医長 金城 勤也

Kinjou Kinya

## 島原病院小児科‘再開’から2年経ちました。

昨年(H27)10月、長崎医療センターより派遣されました金城と申します。

平成26年4月に当院小児科が再開になり2年が経過しました。

『小児科が忙しくないこと』は『その周辺地域の子供たちが、病気もしないで元気な証拠』であり、大変喜ばしいことではあるのですが……。

赴任当初は1日の外来受診患者数も10人を下回ること‘しばしば’。入院患者数‘0’の1週間を過ごすこともあり、先行き不安なスタートでした。

その後、外来受診者は冬場の‘かぜひきさん’の時期を契機に増加の一途をたどり本年度1～6月の外来患者数(2206人)は昨年時期(1115人)の倍となりました。小児科再開の情報が、2年かけて周知されてきたものと安堵し、加えて、ご紹介いただいている周辺開業の先生方のご協力に感謝する次第です。

梅雨～初夏；‘熱くなってきました’が……。  
—‘夏かぜ’の季節になってきました—

例年この時期は、‘ヘルパンギーナ’や‘手足口病’、‘咽頭結膜炎(プール熱)’などのいわゆる『夏かぜ』が流行る時期となってきます。

『ヘルパンギーナ』は‘高熱’と‘のどにできる水ぶくれ(水泡)’が特徴でしばらくすると水泡は破れ潰瘍になります。多くはのどの痛み、よだれ、食欲減退を伴います。



『手足口病』は手のひら、足の裏や口の中に2～3mmくらいの赤い発疹や水ぶくれ(水泡)を作ります。手足の発疹に痛みやかゆみはありませんが、口の中の水泡は痛むことがあります。高熱は少なく、微熱程度。全身状態は良い事がほとんどです。

『咽頭結膜炎(プール熱)』は、発熱、のどの痛み、結膜充血等を特徴とし、夏季にプールを介して(プールの水やタオルの共用など)伝染したことから『プール熱』と呼ばれています。

いずれも口の中の痛みのため‘飲んだり’、‘食べたり’を嫌がることもあり、脱水症を引き起こす原因となります。

これらいわゆる‘夏かぜ’には有効な薬はありません。自分の持っている免疫力を高めて、ウィルスが排除されるのを待つしかありません。それには、安静に保ち、栄養と水分を補給し、これ以上体調を崩さないよう無理をしないことが大切です。

夏休みでお子さんもお出かけの多い時期ではあると思いますが、こじらせてしまって、‘入院’となりかねません。そうなれば、せっかくの夏休みが‘台無し’となってしまいます。お出かけを取りやめることも場合によっては必要なこととお考え下さい。

# 連携医療機関のご紹介

これからの医療は役割分担と連携が大切！  
いつもご協力いただいている地域の医療機関をご紹介します。

## 医療法人ウイング 高城病院

院長 高城 昭紀 先生  
島原市中野町丙1165番地 ☎0957-62-3105

### 地域の医療のため尽力したい

島原病院の皆様にはいつも大変お世話になっています。

当院に入院中の患者さん、外来の患者さんの検査、診断、治療で大変お世話になっています。島原病院がありますので、精神科の医療を安心して行っている次第です。感謝申し上げます。

当院は昭和25年に精神科病院としてスタートしました。(県下で3番目の精神科病院でした。)今年で66年になりました。その間、平成4年からの普賢岳の噴火災害のため、平成8年現在の地に新築移転しました。

現在、非常勤を含めて8人の医師、従業員約180名で運営しています。

ベッド数が192床で、外来治療は島原駅前にありますストレスクリニックウイングで行っています。また、訪問看護ステーション、グループホーム(3棟)を有しています。

また、平成15年から島原病院へ来た研修医の精神科の研修指定病院になりました。平成16年に日本医療機能評価機構の認定を受けました。

今後とも島原病院と当院がうまく連携して、地域医療のため尽力したいと思います。



## 医療法人 坂上整形外科

院長 坂上 和平 先生  
南島原市有家町山川378-1 ☎0957-82-1822

### 病む人の気持ちを！

#### 「地域の皆さんに信頼される整形外科医院を目指して」

当院は、昭和57年4月南島原市で初めての整形外科有床診療所として有家町に開院しました。以来34年にわたり「病む人の気持ちを」を基本理念として地域の医療に励んできました。平成17年6月から指定居宅支援事業所と通所リハビリテーション施設を隣接地に開所し、高齢者の皆様の介護保険によるリハビリと介護予防にも取り組んで来ています。

一方、平成24年1月からは入院施設を廃止して、外来診療のみの無床診療所として新たな出発を始めています。術後の患者さんの受け入れができない等の不自由はおかけしておりますが通院治療で賄えるものをがんばってまいりたいと思っております。

医療から介護まで、今後も地域の皆様に頼られる整形外科診療所としてスタッフ全員精一杯努めて参ります。

最後になりましたが、島原病院の皆様には日ごろから緊密な病診連携で大変お世話になっており有難うございます。今後ともよろしくお願ひ申し上げます。



## がんと共に働くということ



本坊 久仁子がん相談員に聞きました。このマークは相談員の目印です。

医療相談室

生産年齢人口(16～64歳)でがんにかかる方の数は毎年二十数万人にのぼるそうです。働きながらがんの治療を受ける方は、今後さらに増加すると考えられます。生活を維持しながら治療が継続できることは大切なことです。

国が進める2012年度から5カ年の「がん対策推進基本計画」の「重点的に取り組むべき課題」にも「働く世代のがん対策の充実」が盛り込まれています。

働くがん患者さんは、さまざまな困難に直面します。当院のがん相談員に、がんになったときの仕事についてお話を聞いてみました。

### 悩み①：がんの診断を聞いたら自分のことで精いっぱい・・・。仕事はやっぱりやめないといけないでしょうか？

相談員：当然の反応だと思います。検査や治療が次々に計画され、説明は受けても現実についていけないと感じられるようです。治療方針などをよく聞かれ、気持ちの整理ができてから決断されたほうが良いと思います。今まで通りは難しくなることも多いと思います。治療方針や体の変化に応じて調整が必要です。まず自分の思いを話していただき、医師や私たちと一緒に考えましょう。

### 悩み②：職場の人にうまく治療や病気について話ができるか自信がありません。

相談員：確かにうまく話すことは難しいと思います。職場の仲間や同僚が一番の協力者でもあるので、正直に働きたいという思いを、伝えていけると良いと思います。経験しているのは自分しかないないので伝えていくことからスタートしてはどうでしょうか。

### 悩み③：ささいなことでも相談員へ相談してもいいですか。

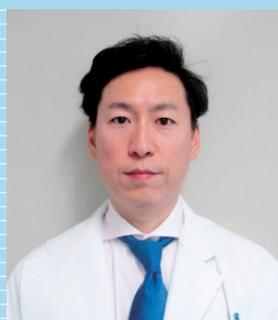
相談員：ウエルカムです！！一人で悩まず自分と向き合える時間となればよいと思って、聴き役に努めます。遠慮されず、来院でも電話でも結構ですので、ご相談ください。

「働くこと」について考える時、「自分の生き方」を見直すことも必要になってきます。まず、体や心の状態、働くことや今の生活について情報の整理をして、困ったときには、がん相談支援センターへお越し下さい。



## 新任医師紹介

①出身地 ②前任地 ③趣味 ④ひとこと



整形外科  
医師 **坂上 秀和**  
(さかうえ ひでかず)

- ①南島原市
- ②国立川棚医療センター
- ③ゴルフ
- ④初めて出身地島原で仕事をする事になりました。宜しく願い致します。



整形外科  
医師 **杉原 祐介**  
(すぎはら ゆうすけ)

- ①千葉県千葉市
- ②北九州市八幡病院
- ③ツーリング・ドライブ・焼肉・昼寝
- ④島原の美味しい店を教えてください。

# 栄養班の災害へ向けた取り組み

栄養班

今年4月14日を皮切りに、熊本県を中心に甚大な被害をもたらした「平成28年熊本地震」。このような災害がいつ起こるか、誰にも予測はできません。そして、いざ災害が起きた時に早急に確保すべきものの一つが「食事」です。食事は生きるために必要な栄養を満たすだけでなく、災害という極めて厳しい環境下で、精神的な安定をもたらすために非常に重要な役割があります。そのため、入院患者さんやそこで勤務する職員のため、いざというときに食事を提供できる体制を整えておかなければいけません。

当院栄養班が災害に対して取り組んでいることについて、一部をご紹介します。

## ○被害状況チェックリストに合わせた「アクションカード」の作成

災害時にまず行わなければいけないのは、被害状況の確認です。電気やガス、水道などのライフラインは使用可能か、施設の損傷の具合、備蓄食品の状況などを確認し、調理作業がどの程度可能かの把握を行います。そこで、突然の災害に備え、確認すべきポイントが一目でわかるよう、項目ごとに図のようなアクションカードを作成しました。優先順位によって色分けし、非常時に人が少ない場合でも効率よく対応できるよう工夫しています。



アクションカード

## ○備蓄食品の管理

被災後に電気やガス、水道などの機能が停止したり、厨房の損傷などで調理が不可能になった場合や、外からの食糧の供給路が断たれた場合の為、当院では平時から食糧を備蓄しています。現在は患者用と職員用で3日分の食料を確保しており（患者食2250食、職員食4320食）、その中にはお粥やペースト食もある為、摂食・嚥下機能に問題のある患者さんにも食事を提供することが可能です。

また、賞味期限が近付いている備蓄食品については、患者さんへ備蓄食品の紹介を兼ねて通常給食の献立に組み込んでいます。過去には備蓄米を使用した混ぜご飯などを「雲仙普賢岳噴火の日」に合わせて提供したこともあります。



その他にも今回の熊本地震に際して、日本栄養士会の要請を受け、日本栄養士会災害支援栄養チーム(JDA-DAT)の被災地支援に当院栄養士が参加しました。活動内容は主に避難所での栄養アセスメントやモニタリング、支援物資(栄養補助食品など)の仕分けなどで、数日間にわたり被災地で活動しました。これからも災害拠点病院として、災害へ向けた対応強化を図っていきたいと思います。

# 市民公開講座を開催します!!

今回、島原市民の方につきましては「島原市いきいき健康ポイント」の対象となります。ぜひご参加ください。

## 脳卒中市民公開講座

テーマ 地域で脳卒中を支えよう



**日時** 平成28年9月3日(土)午後1時30分～4時(開場 午後1時)

**場所** 島原文化会館 中ホール **入場無料**

**座長** 長崎県島原病院 高次脳卒中センター 医師 徳永 能治

- 講演**
- 脳卒中患者の救急搬送 ～119通報から病院搬送まで～  
松本 裕基・末吉 正武 他(南島原消防署 布津分署 救急救命士)
  - 脳卒中の最近の治療について  
松尾 義孝(長崎県島原病院 脳神経外科医師)
  - 脳卒中のリハビリテーション  
出田 康紘(長崎県島原病院 作業療法士)
  - 介護が必要となったとき ～脳卒中と介護保険～  
林 圭一(医療法人社団東洋会 リハサポート 主任介護支援専門員)

## がん市民公開講座

テーマ 肝臓がん ～診断・治療・支援の最前線～

**日時** 平成28年10月1日(土)午後1時30分～4時(開場 午後1時)

**場所** 島原文化会館 大ホール **入場無料**

**座長** 長崎県島原病院 消化器内科 山西 幹夫

- 講演**
- 肝臓がんについて  
山西 幹夫(長崎県島原病院 消化器内科)
  - 肝炎の治療や検査等に関する助成 制度などの行政の取り組み  
市川 ひとみ(県南保健所 地域保健課)
  - 肝がんの診断と内科的治療  
柴田 英貴(長崎大学病院 消化器内科)
  - 肝がんの外科的治療  
蒲原 行雄(長崎県島原病院 外科)
  - 肝がんの放射線科的治療  
小幡 史郎(長崎県島原病院 放射線科)



### 外来受診時間

午前8:45～午前11:00

受付時間外に受診される場合は、救急対応となります。  
平成26年4月7日より小児科再開しております。  
※詳しくはホームページをご覧ください。

### 休診日

土・日・祝日

年末年始(12月29～1月3日)

発行/長崎県島原病院  
(広報委員会事務局:地域医療支援センター)

〒855-0861 長崎県島原市下川尻町7895番地  
TEL 0957-63-1145(代表) 内線116 FAX 0957-63-6544  
URL <http://www.shimabarabyoin.jp/>